

「第7回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」 【16日／17日】 専門家向けセッション

専門家向けセッションに参加された方へ 事後評価アンケート ご協力のお願い

事務局使用欄

このたびは、本シンポジウム専門家向けセッションにご参加いただき、ありがとうございます。
今後の参考に、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。該当する個所に ☐ をお付けください。
参加終了時（17日または16日ご退出時）、出口回収箱に入れて下さい。

Q1 今回参加された日

- ☐ ①12月15日(水) (一般向けセッション)
☐ ②12月16日(木) (専門家向けセッション)
☐ ③12月17日(金) (専門家向けセッション)

Q2 今回の専門家向けセッションに実際に参加された感想をお教えてください。

◆ セッション1 「基礎化学」(Basic Science) について

- 1) 興味
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 大変興味深かった | 興味深かった | あまり興味深くなかった | つまらなかった |
- 2) 理解
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| よくわかった | 大体わかった | あまりわからなかった | 全くわからなかった |

*ご感想:

[]

◆ セッション2 「野生動物」(Wildlife) について

- 1) 興味
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 大変興味深かった | 興味深かった | あまり興味深くなかった | つまらなかった |
- 2) 理解
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| よくわかった | 大体わかった | あまりわからなかった | 全くわからなかった |

*ご感想:

[]

◆ セッション3 「曝露」(Exposure) について

- 1) 興味
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 大変興味深かった | 興味深かった | あまり興味深くなかった | つまらなかった |
- 2) 理解
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| よくわかった | 大体わかった | あまりわからなかった | 全くわからなかった |

*ご感想:

[]

◆ セッション4 「人健康影響」(Human Health) について

- 1) 興味
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 大変興味深かった | 興味深かった | あまり興味深くなかった | つまらなかった |
- 2) 理解
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| よくわかった | 大体わかった | あまりわからなかった | 全くわからなかった |

*ご感想:

[]

◆ セッション5 「今後の研究の方向性」(Future Research Directions) について

- 1) 興味
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 大変興味深かった | 興味深かった | あまり興味深くなかった | つまらなかった |
- 2) 理解
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| よくわかった | 大体わかった | あまりわからなかった | 全くわからなかった |
- * ご感想:

◆ セッション6 「リスクコミュニケーション」(Risk Communication) について

- 1) 興味
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 大変興味深かった | 興味深かった | あまり興味深くなかった | つまらなかった |
- 2) 理解
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| よくわかった | 大体わかった | あまりわからなかった | 全くわからなかった |
- * ご感想:

Q3 今後どのようなセッションを実施してほしいですか? できるだけ具体的にお書きください。

Q4 今後どのような講演者に発表してほしいですか? 所属機関(施設)名もわかる範囲でお書きください。

Q5 今回のシンポジウムの運営面についてご感想をお聞かせください。

- 1) 気づいたこと(複数回答可)
- ☐ ①講演者間の討論を行うべき
 - ☐ ②フロアとの質疑・意見交換が不十分だった
 - ☐ ③アブストラクトをもっと詳細にすべき
 - ☐ ④休憩時間が短かった
 - ☐ ⑤通訳が不適當だった
 - ☐ ⑥その他 ()

2) セッション数について

1	2	3
☐	☐	☐
多い	適切	少ない

3) ひとりあたりの講演時間について

1	2	3
☐	☐	☐
長い	適切	短い

4) その他工夫すべき点等ございましたらお書きください。

Q6 差しし支えのない範囲であなたのプロフィールをお教えてください。

年齢	10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上	性別	男・女
職業	学生・化学物質関係業界(研究者を除く)・研究者(分野:) 行政関係者・メディア関係者・その他()		
環境ホルモン学会			

ご協力ありがとうございました。

今後希望する 課題・分野	今後発表を希望する 人・所属機関	その他工夫すべき点等	プロフィール		
			年齢	性別	職業
		前半の部が3部で分けた方がいい。2時間以後の3時間までの間の発表は聞かれなかったです。トイレ行きたいし。疲れたし。	30代	女	その他の研究者
名古屋でもっと国際会議を開催してください。		日本文による要旨集がほしい。	50代	男	行政関係者
ヒト・野生動物の行動異常について	Rex.Hess(Professor Illinois) Thomas Knudsen(Editor of Reproductive Toxicology & Louisville University?)	要旨集にメモらんを多くとってほしい。	30代	女	学生
	具体的かつ、わかりやすいプレゼンをする人を選んでほしい。	プログラムを事前に出してほしい。HPで。演者がどの時間にどんな発言をするのか情報なさすぎる。	20代	女	学生
鳥類への環境ホルモン作用機序について、生理学(ホルモン)・遺伝分野の学者より講演して欲しい(世界的学者)	島田清司(名古屋大学 Professor)	名古屋国際会議場へのアクセスが不便、名古屋国際会議場のレストランがメニューを工夫	50代	男	その他の研究者
毒性の整理をしてほしい。発ガン研究、内分泌攪乱、アレルギー、急性毒性-環境中ではこれらが複合的に起こるが、これらの問題をこた煮にしまうことも困るし、完全にバラバラに取り扱われていくのも困る。毒性学の展望を整理して他の毒性学会との橋渡しをしてほしい。(もちろん内分泌学を長年扱ってきた先生方の考え方が大切であるとおもわれる。)このことは長期暴露(次世代への影響)を中心に考えている場合には余り意味のない議論かもしれないが、過去高濃度において発ガンの問題、農薬で急性毒性(今でもプランクトンの影響を考えるとこのことも考慮しなければいけない)、ぜんそく、アレルギー疾患など現在でも先進国、途上国でいろいろな毒性問題を引き起こしている。各専門家にとっては個々の事象かもしれないが毒性問題としてはどれも重要であり、その共通性と相違点を整理しないといけない。このことはプログラムでは特に重要であると思われる。いかに問題の本質をわかりやすく正確に区別して伝えるか、過去のマスコミなどによる過剰報道などへの反省も在って。海洋性哺乳類の大量死問題は変化しているのか?その原因は?など、国際機関、EUetc、産官学の連携はどこまで進んでるか?(建て前でなく本音で)日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジア(中国、東南アジア、インド)etc、国による取り組みの違い(国の出費や、経済事情、国民意識あとの違いもふまえてこれからどこに力を入れる(学問、経済、政治的レベルで)べきか?	テア・コルボーン(ここ10年でどれくらいこの問題に関する認識が変わったか?変わらないか?) ベトナムの現場の研究者(環境ホルモン問題を追いかけている人)	妥当な学会との合同学会やシンポジウムで建設的な視野の広がりが生ければいいのでは、と考えた。	20代	男	学生
	高菅先生・島津ラボリサーチ(株) ラインダース(オランダ、アザランの専門家)	パネルディスカッションなど、専門家同士のミーティングの場をもうけてほしい。終わりの時間を短くしてほしい。	30代	男	その他の研究者
野生動物に関する分野			20代	男	学生
	Walter Giger, EAWAG, Swiss John Sumpter, UK	全員英語でやろう	30代	男	その他の研究者
ヒト、環境など、実際の化学物質のレベルとその毒性(リスク)の評価			30代	男	化学物質関係業界
内分泌かく乱物質が神経発達にあたえる影響について			20代	女	その他の研究者
成果を争うことも重要であるが研究の基礎的条件統一に関する分野を重視すべきである		プログラムは15日から配布すべき	40代	男	その他の研究者
		プログラムは初日(15日)から配布すべきである。	30代	女	その他の研究者
		プログラム・アブストラクト集を早めに配布してほしい。題名だけでも事前に知っていた。	30代	女	化学物質関係業界
Ecotoxicology 環境倫理的側面の討論が必要	Susan Jobling (Brunel University UK)	今後もこのようなシンポジウムを継続的に(毎年)行っていただきたい	40代	男	その他の研究者

今後希望する 課題・分野	今後発表を希望する 人・所属機関	その他工夫すべき点等	プロフィール		
			年齢	性別	職業
・科学の根本問題を議論すべき ・リスクの問題をもっとまともにとり扱うセッションを作してほしい。今年のは松井氏を除いて、全く〇〇だった人がそれによってすぐ死ななくても、次世代をのこせない変化(長い眼でみた変化)が、人の生死を決めるものである。	・Vom Seal(ミズーリ大) ・リンダ(米EDA長官) ・Guo(台湾) ・原田(熊本学院大)			女	その他の研究者
		夜のセッションがなくなったのは良かった。	30代	女	化学物質関係業界
食品を通じての暴露	国衛研・河村葉子氏	高田氏の発表は問題。埋立地からの浸出水があのように汚れているなら河川に放流しない対策が必要。これを放置し、EDCsの分析だけを行う神経が理解できない。ODAなどを利用して、インフラ整備に協力すべきだろう。研究者の興味だけで協力を求めるのは筋違い。	50代	男	化学物質関係業界
医薬品(〇〇産物/分解産物を含む)の水環境における方向とその作用(EDCsを含む)解析。		1名の演者ー1題にすべき。1名で2題は??	60代	男	その他の研究者
特になし(現在のやり方でよい)	・特になし(現在のやり方でよい) ・Q6-4)参照のこと! ・ダイオキシン問題に批判的な渡辺正(東大教授)を呼ぶのも面白いかもしれない(一般市民向きでなく専門家セッションの方で)	・各セッションごとに統括をしてほしい(最終の2セッションはある程度行われた) ・リスクコミュニケーションのセッションは環境を専門とする中西、内山氏に講演していただきたいかった。	70代以上	男	その他の研究者
農薬(SPPDE '98にもあげられている)		日本語のアブストラクト集を用意すること!	40代	男	行政関係者
今回の基礎科学の分野を増やしてほしいです	環境ホルモンのシンポジウムである以上、環境ホルモンについてある程度の知識のある人を選んでほしいです。他分野の話は為になるのですが、少なくとも環境ホルモンに興味をもっていることを最低条件にして下さい。あと、日本の先生方は他でも聞いたことのある内容になっていたのが残念な人もいた。	フラッシュを使用しないで下さいとのアナウンスをお願いします。	20代	女	学生
燃焼起因のダイオキシン類と農薬からのダイオキシン類では人間に与える環境ホルモンとしての影響に違いがあるのではないか。 PCDDs/PCDFs & Co-PCBsの他に多量の塩素化有機化合物や炭素、多環芳香族化合物(PAHs)が共存している。		コーヒープレイク 午前、午後各1回はほしかった。 コーヒの提供がほしかった。	60代	男	その他の研究者
		要旨を日本語でも書いてもらいたい。	40代	男	行政関係者
リスク評価についてきちんとした説明をしてほしい リスクコミュニケーションのセッションは意見の違いのある演者に出てもらい多角的に議論すべきである。一方的な意見の押し付けになるようではいけない。			40代	男	その他の研究者
甲状腺ホルモンかく乱の研究の日本での進展具合 性ホルモンかく乱の研究の日本での進展具合	日本の研究者も半分いれたらどうですか?	発表者が多く、時間的にタイトな割には、タイトルがもり上がらない。 15日に行って、16日17日のアブストラクトをくれないので不便	40代	男	化学物質関係業界
免疫系に対する影響を取り上げてほしい。			40代	男	その他の研究者
動物の病気との視点から、獣医学の専門家の発表を望みます。	田谷一善氏(東京農工大) 高橋みち雄氏(東大農名管教授・味の素)	通訳スタッフは毎年同じと思いますが、尽力に敬意を表したいです。 Lunch Timeが早すぎた。Sessionの中間にはさんでしまっても良いので、12:30~14:00位に設定した方が良いと思います。	30代	男	その他の研究者
周産期における〇〇についての発表に関心を持っています。免疫、細胞の成立する時期ですから、大きな興味をもっています。			40代	男	その他の研究者
neuroscienceとEDCsとの関連について、精神疾患の話題をより詳しく取り上げてほしい	脳科学者で環境ホルモンとの研究を実際に行っている人	ポスター展示室とシンポジウム会場をもっと近くにするべき。もう少しスクリーンを大きくしてほしい。あと少しだけライトを暗くすれば、より見易いのではないかと思います。	40代	女	学生

今後希望する 課題・分野	今後発表を希望する 人・所属機関	その他工夫すべき点等	プロフィール		
			年齢	性別	職業
		発表の内容(アブストラクト)ができるだけ早く手もとにほしかった。一般向けのものは特に必要ないが、専門家向けのものについては、以前に内容を理解しておきたい。もっと早くプログラム集が届くよう考えてほしい。	30代	男	行政関係者
	国立環境研究所、日本の環境研究の中核の機関から1名ではさみしい	アブストラクトに日本語訳がほしい			
	ジャーナリスト	HPでの情報が少なすぎた。演者等もあらかじめ開示していても良かったと思う。	30代	男	化学物質関係業界
ホルモン攪乱作用が確認された研究成果。		セッション6は必要なかったと思う	50代	男	行政関係者
			60代	女	その他の研究者
	井口泰泉氏 森千里氏		50代	女	その他
処理(分解)技術			40代	男	その他の研究者
		終了時間は夕方5時位が適当だと思う。特に2日目は9時～19時と長い。	30代	男	行政関係者
NPOの活動について議論、報告 子供への影響についてをテーマに加える		もっと新聞等でシンポジウムの紹介をしたらいいと思います。	50代	男	行政関係者
リスクコミュニケーションのセッションは今後も継続してほしい。研究者、行政、マスコミ等利害関係者以外のまったくの一般の人を参加させた大胆な形式も考えてみるべき。			40代		化学物質関係業界
・脳、神経等 ・発生(性文化)	・フィールドワーカー、博物学者的なひと。 ・脳、神経、行動科学分野のひと。	・会場の問題だけど、トイレにエアータオル(ペーパータオルでも)がない。 ・「参加費無料」はスゴイですね ・相方向の通訳があったのはフェアでよい。専門用語ばかりなのに、ごくろうさまでした。	30代	男	その他
	中西準子はやめてほしい				
リスク評価結果(BPA、NP等)		今回は多面的な意見の発表、討論が行われ有意義であった。次回以降は従来の国際シンポではなく、個別テーマについて具体的発表を適宜行えば良い。年1回の大会議の役は終了した。	50代	男	化学物質関係業界
		発表時間を厳守する	60代	男	化学物質関係業界
		科学者の姿勢を外から見て評価する場面が興味があった。今後の科学者の向かう方向が見えた。	50代	男	行政関係者
今回は「行き過ぎた環境ホルモン問題」から脱却するのが目的？ 未だ時期尚早では？	私もマスコミから何度が取材されたが、マスコミはまとまったTVの最終確認を全くしない。前提条件を省略して報道するので、それだけ聞いた視聴者は間違った情報を得てしまうようなことを平気でやる。アジテート、センセーショナルこそが情報の価値と勘違い？ それが再三再四なので、未だにマスコミ嫌いです。	人を裁くときに「疑わしきは罰せず」という原則がある。しかし人間が人工的に作った化学物質は「疑わしきは注意しよう」であるべき。マスコミもあいまいな部分を明らかにした情報の迫力を認識すべき。規制は数値がクリアにならないと施行できないという時代(余裕(緩衝力)のある)は終わったのではないか。	50代	男	その他の研究者
かく乱作用のNegativeな報告についても発表を。	セッション4のCommentatorを行った研究者とは異なる立場の方(評論家等ではなくこの分野の専門知識を持っている)の発表	セッション1は座長の進行が悪い。時間配分を適切にして欲しい。講演内容はアブストラクトにデータを追加して理解し易くする等の工夫がもう少し欲しい。	50代	男	化学物質関係業界
脳神経系発達への影響	RT. Zoeller		20代	男	学生
リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションを含んだリスクアネクシス	中西準子(産業総合技術研究所)、EUあるいは同域内で予防原則を支持する国のリスク管理担当の行政官、米国でリスク管理担当の行政		20代	男	行政関係者
		夕方時間が遅すぎる。7時はあまりにひどい	50代	男	その他の研究者

今後希望する 課題・分野	今後発表を希望する 人・所属機関	その他工夫すべき点等	プロフィール		
			年齢	性別	職業
これまで問題となった点をいくつかに分けて、徹底的に大討論会をやしてほしい。少なくとも午後をすべてつぶしてやってほしい。	リスクコミュニケーションの討論会にメディアの当事者が出てこないのが一番不思議。このメディアの人たちが、どう考えて行動しているかの事例がないと議論は深まらない				
自分の研究の位置付けを客観的にみることができる人を集めて総括セッション(今回のリスクコミュニケーションが少しそうであったが)を公式に設けてほしい。	自分の研究の位置付けを客観的にみることができる人		30代	男	その他の研究者
リスクコミュニケーションの発達のための具体的取組	中西準子教授		30代	男	化学物質関係業界
野生動物、実験動物、ヒト(疫学)それぞれにおける基礎データの蓄積と、国際的共有化、多様性を把握できるように。	特になし	・今後の方向性については、パネルディスカッション形式にしたら良かったのではないかと感じた。 ・日本人の演者リストについては英語だと所属がわかりづらいので、日本語版もあった方がよい。 ・最後のセッションで「30分位の延長はある」と座長に突然いわれたのに驚いた。正しいタイムテーブルを作成していただきたい。 *セッション6:座長がしゃべりすぎ	40代	女	その他の研究者
リスクコミュニケーションのあり方			30代	女	その他の研究者
植物に対する影響を総合的に話せる人		日本人なのに他国のレビューをするような人はやめてほしい リスクコミュニケーション・セッションは、専門家プログラムに不適切。リスコミにも環水にも知識がない人が出たのは問題。	60代	女	その他
		6のセッションのリスクコミュニケーションのパネラーの人选が極めてかたよっている。市民の素朴な思いを代表する人が一人もいない。意図的な企画、意志を感じる。環境省はこれで環境ホルモン問題を終わりにするつもりか。	50代	女	その他の研究者、
		内分泌攪乱化学物質とはなにか、今回もSn化合物、ダイオキシン類の話が多数発表があるが、環境省のSPEED'98のまとめでは、内分泌かく乱作用は認められていない化学物質の毒性問題とのちがいを考えたシンポジウムにしてもらいたい。	50代	男	化学物質関係業界
		12/17の最後のセッションは、広くいろいろな人に参加(聞いてもらう)してもらう必要があるのでは? 内容の詳細な紹介を一般向けに広げることも必要では? 特にこのような話を聞きたくない人たち(内分泌かく乱物質がそれほど緊急性のない問題であるという認識を持たれては困るような人たち)にも聞いてもらうべきでは?(松崎氏のように問題をすりかえて自分の主張に合わないことは受け入れられないような人たちが聞いてもムダかもしれないが)そこにリスクコミュニケーションの難しさがある。	40代	男	その他の研究者
		せっかく立派な講演なので、Abstractだけでは、もったいない。是非、Proceedingを発行してもらいたい。 本シンポジウムの雰囲気も昨年から変わってきていたが、今年は、今後の目指す方向について講演者のベクトルが合ってきたような気がした。これまでの相手をやり込めるようなシンポジウムではなく、将来のためにどうすべきか、何を調べればよいかと真剣に話し合う姿に感心した。	50代	男	化学物質関係業界
		大画面の操作がお見事でした。	40代	男	化学物質関係業界
		(セッション6で)もう少し論点を絞ってほしかった。 社会心理学者は有意な意見はみられなかった。	50代	男	通信学者
		パネルの時間をもっと長くしてほしい。	20代	男	学生
食、農薬に特に関連した分野、EUのREACHにおけるEDCの位置付	有機農業推進自治体(さいたま県小川町)、EUのREACHの人		30代	男	その他の研究者
作用機序に関する新しい知見			40代	女	その他の研究者
税金のムダ使いと環境省主催の行事としてはもう止めても良いのじゃないです	参加者も少なく、講師の方が気の毒ですね。	要稿集が不十分です。これでは発表の内容が残りません。極めて不親切です。	60代	男	その他
環境ホルモンについてのリスク評価例・生態影響評価例			30代	女	化学物質関係業界

今後希望する 課題・分野	今後発表を希望する 人・所属機関	その他工夫すべき点等	プロフィール		
			年齢	性別	職業
	化学業界		50代	男	化学物質関 係業界
	鎌田先生のような地道な研究者の発表	* 相反する研究結果報告は、双方の研究者の発表と討論が必要。(一方的な発表が誤解と混乱を招いてきたので双方研究者発表をお願いした。) * 詳しい要旨を(和訳は不要)お願いした	60代	男	化学物質関 係業界
SPEED98の会議により、水生生物に影響が出ることがわかったことから、水生生物を中心に実施してほしい。	農水省、厚生省関係の独法の研究者にも発表してほしい。	影響がある分野、たとえば人のDXN、SPEED98水生生物の分科会的なこと、またはその分野の専門家のディスカッションがみたい。	30代	男	その他の研 究者
野生動物の基礎研究について、昆虫でも鳥類でも哺乳類でも	上記の研究をしている専門家、良く知らないのですが	16日は講演者が多すぎて集中力がかみませんでした。17日くらいのペースですとまだついていけます。パネルディスカッション形式は非常に良いと思います。通訳がすばらしかったと思います。	30代	女	その他の研 究者
これまでと同じくらいのウェイトでWildLifeへの影響に関することに時間をさいてほしい。 ・リスクコミュニケーションに関するディスカッションもひきつづきお願いしたい。		内分泌かく乱物質の関する周りの関心が低くなっていると感じる今日この頃ですが、そんな中でも、充実したシンポジウムであったと思います。会場も非常によかったと思います。	30代	女	その他の研 究者
リスクコミュニケーションの時間をもっと長くしてほしい。			40代	男	行政関係者
作用機序が全部解明されるまで、続けてほしい。他の事故にも、応用できる部分があるでしょうから。(すべてのメカニズムがわかる頃には、その問題は存在しなくなるかも知れませんが。)			50代	女	行政関係者
・欧米で行われているリスク評価の具体例 ・欧米の内分泌かく乱物質問題関係のプログラムの進捗		・もう少し議論を活発に行ってもよいのではないか。 ・セッション6/リスクコミュニケーションに参加されている、研究者の先生達が少なかったような気がする。シンボの最後ではなく、途中の方がよかったのではないかと。一般セッションでも良かったと思う。	40代	男	化学物質関 係業界
Riskmanagement			50代	男	化学物質関 係業界
リスクコミュニケーションにおける法的問題について 小・中・高の学校における説明の仕方について		スクリーンを撮影するのにストロボを使っている人がいた(多分カメラが自動で発光したと思われる)	40代	男	その他の研 究者
環境毒性学。Estrogenicな化学物質だけでなく、ダイオキシン類による内分泌かく乱について。			20代	女	学生
リスクコミュニケーションに限定せず、環境リスク論全般		セッション6があと1、2時間長ければ良かった。	20代	男	学生
「環境ホルモンなんてでたらめだ」と主張するこのお二人がなぜここに出てくるのか非常に不思議だったので逆に興味を持った。		リスクコミュニケーションのセッションはあまりに不自然。「内分泌かく乱物質問題に関する国際シンポジウム」なのに、日垣氏、山形氏、中西氏のように「何にもないものを『あるかもしれない』と言っているだけ」という人達で構成されているのは何故なのか。これがリスクコミュニケーションなのだろうか？木下先生も、本問題については全くご存知ないので話の焦点が合っていない、このようなセッションは時間と税金の無駄遣いではないか。	40代	女	その他の研 究者
この問題は細かい点と大局的な点で見る必要がある。環境問題は、特に野生生物についても干渉や生物を守る活動も大切である。全体的に見て物事を言うことが大切。	NHKの報道についても反省することが大切。	各セッションでの発表数が多いので、しぼって議論に時間を与えるべき。	40代	男	化学物質関 係業界
		議論の時間が少ない	50代	男	
		ディスカッションの時間を長く！	50代	女	その他の研 究者
シックハウス症候群や化学物質過敏症についてのシンポジウム	梅原克彦 環境工学博士 日本国連環境計画ファンデーション委員		20代	男	化学物質関 係業界
海外の国際機関、国内のダイオキシン、環境ホルモンに対するリスクアセスメント、規制、基準化の設定などの動向	開正理恵(環境情報科学センター)ダイオキシン 規制、加藤純子(三共化学学会科学研究所) (各国の対応)、関澤純(徳島大学) 国際機 関の対応	今回は演者、講演テーマの公表が環境省のホームページに無かった。少なくとも1ヶ月前にはプログラムを公表して欲しい。	70代以上	男	その他の研 究者
なかなか動物実験のものの結果が少ない様だと思う。実験動物への影響というテーマもほしい。	専門家と一般向けの区別はやめて、消費者団体、企業の人にもプレゼンをさせてほしい。(研究者ではなく)	環境ホルモン学会と共催でいくべきだが、学会での発表内容につこんだ企画をつくってほしい(ただ、ポスターをそのまま掲示しておくというのではなく)	40代	男	その他の研 究者